

子宮筋腫合併妊娠のおはなし



子宮筋腫があって妊娠した場合には、筋腫の存在する場所が問題になります。子宮からコブのようになって存在する漿膜下筋腫は、妊娠しても影響することがほとんどありません。これに対して子宮筋の中にある筋層内筋腫や子宮内腔にできる粘膜下筋腫は、妊娠中に様々な合併症を起こしやすくなります。

これらの子宮筋腫があると、胎児だけでなく子宮筋腫も成長することからお腹が張りやすくなり、切迫流産や切迫早産になりやすくなります。また、妊娠中には筋腫の部分に痛みを伴うことがあり、この痛みが原因で入院が必要になることも少なくありません。

このような痛みの原因は、内部に水がたまってしまうような子宮筋腫の変性や、成長した胎児の体が圧迫することなどが影響しているとされています。

また出産の頃には、筋腫が産道をふさいで経膣分娩が難しくなり、帝王切開が必要になることも少なくありません。また、子宮筋腫は単独で存在することが多いですが、複数存在することも少なくなく、子宮筋腫が単独で存在する場合よりも複数ある方が妊娠中のリスクが高くなることが多いと思います。妊娠初期は、筋腫の状態がわかりやすい時期ですので、詳しく調べてもらうことをお勧めします。

きうち産婦人科医院 院長 山田 哲夫



おねしょ（夜尿症）について



周囲になかなか相談できないので、うちの子だけかもしれないと思っている保護者の方も多いと思います。実際は、アレルギー疾患について2番目に多い小児の慢性疾患と言われています。5歳以降で、月1回以上のおねしょが3か月以上続く場合を【夜尿症】と言います。

まずは、生活改善から見直していきます。

- ◆早寝早起き
- ◆夕食後の水分を控える
- ◆塩分を控える
- ◆便秘予防
- ◆寝る前にトイレ
- ◆夜中トイレに起こさない



これらの生活改善をしても改善しない場合は、治療を行います。当院で行っている治療は…

★薬物療法（尿の量を調節する薬や膀胱の収縮を抑える働きをもつ薬）でコントロールしていきます。夜尿症は、本人も保護者の方もストレスを強く感じていると思います。性格やしつけとは全く関係ありません。焦らない、怒らない、比べないことがとっても大事です。もしお困りでしたら、一度小児科に相談してみてもいいでしょうか？

ももやこどもクリニック 看護師 蓬田 彩香



RS ウイルスワクチン「アブリスボ」の接種をおすすめします



RS ウイルスワクチン「アブリスボ」の接種をおすすめします。

RS ウイルス感染症は、乳幼児や高齢者にとって重篤なリスクを伴う呼吸器の病気です。特に生後6ヶ月までの乳児は重症化しやすく、入院治療が必要になるケースも少なくありません。しかし、RS ウイルス感染症に対する治療法は対症

療法に限られるため、感染を予防することが重要です。

アブリスボは新生児・乳児および60歳以上の高齢者におけるRS ウイルス感染症を予防するワクチンであり、国内唯一の選択肢です。妊娠24～36週の妊婦に1回接種することで、赤ちゃんが生後6ヶ月までRS ウイルス感染症に対す

る免疫を獲得することが期待できます。

当院では妊娠34週ごろの接種をおすすめしています。ご希望の方やご質問のある方は、スタッフにお声掛けください。赤ちゃんの健康を守るために「アブリスボ」の接種をぜひご検討ください。



アルミテミス宇都宮クリニック 助産師 須崎 貴子